日本医学会分科会活動報告

学会名　（№. 33）日本保険医学会
代表者名　　品川 貴郁

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

日本保険医学会は、相互扶助の精神という生命保険の理念を全うするため、その根底にある公平性を守るという使命を果たしてきた。具体的には、下記に関する研究を通じて、生命保険事業が健全に運営されるよう提言を行うとともに、生命保険事業の更なる発展に貢献している。

- 被保険者の健康情報の取得
- 被保険者の健康情報に基づく生命予後・疾病リスクの推定
- 保険金・給付金の支払に必要な情報の取得
- 生命保険の引受・支払に携わる査定者（アンダーライター）の育成
- 保険商品・保険約款に関する医学的視点からの検討
- 先進医療技術や新たな疾患概念、医療制度が生命保険事業に与える影響の検討

b.当該領域における国際的な役割

日本保険医学会では国際渉外の担当者を設け、海外の保険医学関連学会の動向、および海外の生命保険市場について調査・情報交換を行っている。日本保険医学会は国際保険医学会（ICLAM：International Committee For Insurance Medicine）の一員でもあり、日本保険医学会の会員が Board Member として ICLAM の運営に携わっている。日本は世界の中でも有数の生命保険市場であり、国際的な注目度も高いため、日本保険医学会が果たすべき役目は多い。

c.活動からもたらされる社会的な意義

生命保険では、一定の死亡率や保険事故発生率を基礎として算出した保険料により、被保険者の死亡などの損害を補てんし、相互扶助を実現している。もし予定の死亡率・保険事故発生率を超える人々を無造作に混入させれば、保険会社の支払いは著しく増え、善意の加入者が不利益を被ることになる。このような状態を回避するため、保険会社は予定の死亡率・保険事故発生率を超えると判断される人については契約を見合わせる、または加入条件の変更により契約する等の方法で被保険者の選択を行う（これを危険選択と呼ぶ）。日本保険医学会では、被保険者の健康情報に基づく生命予後・疾病リスク推定についての研究成果が多数発表されており、学会の活動が危険選択において果たす役割は大きい。

また、数十万・数百万の被保険者を数十年に渡り観察したデータから、健康状態別の生命予後・疾病リスクを推定する手法は、まさに分析疫学におけるコホート研究と同様であるため、日本保険医学会の研究成果は、大規模コホート研究と同等の重要性を持つと考えられる。

d.学会運営上留意している点

日本保険医学会の会員は医師だけでなく、生命保険会社に勤務する査定者（アンダーライター）なども多いため、定時総会等の学術集会では、そうした方々にも役立つような講演・セミナーを用意することを心がけている。
II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい.
特になし。